

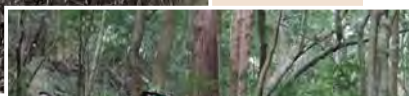


錦帯橋を紹介する刷り物。旅の大衆化とともに土産物として各地に広まった（岩国徴古館蔵）



錦帯橋を中心とする岩国城下町の風景

景が江戸時代から多くの往来を生み、観光業や文化を生み出してきた。このころ描かれた錦帯橋の絵図には、名所として知られる岩国山を背景とするものが多く現存する。描かれてきた構図ポイントを目指し、視点場へと登る参加者。視点場は、展望台登山口から約5分程度歩く



①

重要文化的景観の構成要素となる地点を散策しながら観察

①内水氾濫に備えて配置された芦堀の説明を受ける参加者。当



②

時から残る堀の周辺の建物は石積みでかさ上げされている

②旭町は藩主の居館や重臣の屋敷地が主であった横山地区で唯一の町人地。古い町並みがこの地区の暮らしを今に伝える

市政 PICK-UP

絵師の気持ちで眺める錦帯橋

11月6日、文化的景観観察会が岩国城下町の横山地区を中心に行われ、14人の市民が参加しました。

この観察会は「錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観」が、10月11日に山口県内で初めて国の重要文化的景観に選定されたことを契機として実施されたものです。

観察会では最初に重要文化的景観を構成する要素などの説明を受けた後、岩国徴古館で錦帯橋の絵画や浮世絵を鑑賞したり、

文化的景観観察会

横山地区の町並みや城山、岩国城展望台などを散策したりしました。浮世絵や刷り物に好んで描かれた風景の構図と似た景色を城山の視点場から観察した参加者からは昔と変わらない風景の構図に感嘆の声が上がっていました。

市では、この景観の価値を継承していくために今後も町歩きなどを開催し、景観の価値や魅力について発信する機会を設けていきます。

関錦帯橋課 ☎(29)5107



浮世絵色付け体験：昔の浮世絵は1枚1枚順番に色付けしていた。浮世絵鑑賞で色付けの「ずれ」に気付くことも鑑賞の楽しみに

多様性を認め合い平等な社会を

11月10日、岩国市民文化会館でじんけんフェスタ2021 in いわくにが開催されました。

この催しは人権に対する正しい理解と認識を深めるため毎年開催されており、今年も学校関係者や市民約350人が参加しました。

式典では市内の中学・高校生が応募したポスター、標語、作文、詩の中から優秀作品に選ばれた生徒と、人権問題に対して積極的な取り組みを行っている学校に対して、福田良彦市長が



ポスター、標語、作文、詩の各部門の代表者に福田良彦市長から表彰状が授与された

じんけんフェスタ2021 inいわくに

ら表彰状が贈られました。表彰式後には作文と詩の特選受賞作品の朗読が行われ、会場から大きな拍手が送られました。

今年の記念講演は感染症拡大防止のため、オンラインで行われ、公認心理師の東小雪氏が「LGBTを理解する〜日本社会の中でマイノリティであること〜」と題した講演を行い、自身の体験を通して、性の多様性を認め合うことの難しさと大切さについて話しました。
関人権課 ☎(29)5080



オンラインにより行われた記念講演を真剣に聞く参加者

乗り方を学んでバスを身近に



バスの後方ドアから乗り、前方ドアから降りるという基本的な乗り方から学んだ



現金だけではなく、電子マネーでのバスの乗り方体験も行った

10月25日に川下小学校の2年生、11月8日と10日に岩国小学校の3年生を対象としたバスの乗り方教室が開催されました。バスの乗り方やマナーについて学び、バスの利用促進につなげることを目的としたこの取り組みは今回が初の開催となります。

バスの乗り方教室開催

教室では、いわくにバス(株)の協力の下、校内のグラウンドに市内を運行する路線バス2台を乗り入れ、設置した模擬バス停で乗り降りの体験や、車内での運賃表の見方、支払い方法などの学習が行われました。1人ずつ整理券を取って座席に座り、運賃表で金額を確認して降車するという一連の流れを体験した児童らは「今まであまり乗ったことがなかったので知らないことが多かった。休みの日などに自分で乗ってみたい」と話していました。

市は今後も、地域に密接した公共交通機関であるバスの利用促進を進めていきます。

関地域交通課 ☎(29)5106